

全学自治会同盟会機関紙

新入生1
第1号 NO.1

帝国主義の反動・抑圧の闘争
学生自治会を建設しよう！

樹々のみどり

はじめて

全学自治会同盟会機関紙の発行、とりわけ新入生諸君に、我々は、現在の京大が社会にどうこの国の政治を果たしているのか、日本の国内再編の中心にあり、また大学再編とは何なるのか、見つめる必要がある。我々の活動の中心にあり、我々の自治活動、中心とは何なるのかを数回にわたるシリーズとして報告したい。

□ 全国の大変再編の動きを概観せよ

現在の大学再編の動きは、経済危機の中で、知識階級の産業構造の再編と侵略に向けた戦時体制による、この国内再編の中心にあり、自らの生命をなすつてこの日本の利害動向に左右されている。日本が大学に求められているものは、資本家にとって従順なエリート、高級労働力産出の装置として、又、自衛隊としてこの大学である。国内再編をなすもろんなために、三甲塚、梁山をめぐらした全国の大学再編、人民の争いを押す、圧殺し、収奪と管理強化の攻撃がなされ、また、あり、大学においても、年次別出動、78年、あの偉大な三・二六三甲塚、初級再編にあり、四・二〇文部省通知をテコに、大学の再編、教育研究体制の再編は、戦時体制にあり、この一年間においても、筑波大にあり、この再編の中心にあり、東京大学では、78年の文部省長官大木を口実に、学生処分制度の復活が画策されている。四・二〇通知をテコに、全国の大学にかけられているのは、管理強化は、学生処分（筑波大、東大、九大等）、「サークルBOX」自主管理としての学生会館の解体、破壊（熊大、大分大等）、管理強化の規制、制限（筑波大、横国大等）の再編（大分大、京大、小樽大等）をめぐら、日本のなす、立ち上がり、再編、教室の夜間ロックアウト等、様々な形でなされ、なされている。

このような管理強化と併行して、78年度、各大学で、共通一次入試でも、人民を差別し、選別する教育体制が構築されようとしている。東大、京大を頂点とする帝国主義大学のヒラミッド化、産業界共同研究を推進し、上昇志向をあり、「階級」者としての、社会一資本家にとって役に立たない人間を教育から排除する体制が補完する中で、大学再編、教育、研究体制が再編されようとしているのだ。その中には、学生は文部省、大学当局から直接管理され、強制された空間、研究を行わなければならないことを認識しなければならない。我々は侵略と産業再編に向けた大学再編、管理強化と併行して、自らの生命をなすつて、大学を今の教育研究体制を解体する作業を通じて、自治活動を創造していかねばならない。

□ 国内管理強化の動き、産業再編の動きを概観せよ

全国的な大学再編にあり、京大でも精華町移転、関西大学研究都市建設という大目的にあり、着々と再編の動き、教職員に対する管理強化が進んでいる。

(サラハ)

党内治安立法=4.20通知、粉碎！ 産業化攻撃粉碎！ 帝国主義的の大学再編と対決せよ

「三・七國有財源管理組織」「四・二〇通知」の要領をテコとした管理強化は、
鉄建公団、トコロの職を口裏とした会計検査を口裏に、学生が自主管理している吉
田・熊野二票、職員にかけられてきている。

職員に対しては、一月末、総長名で「細紀肅正」文書が全職員に配布され、各部
局々「自主規制」と称して、出勤時間の強制、夏休み時等の取りあげ、廃止を含め
た各種の職員の待遇の改善をしようとしている。又、臨時職員を雇った全職
員の二職員に対し、執行猶予な切れたにもみみならず、確約に基づいた復職が今だ
実現されていない。

京大精進町校舎の具体的な損害物として、予想される学生運動を抑制するため
学生を机の前に縛りつけ、物を言わない、騒音を持たない学生として、資本家に従
順に奉仕する学生を養成するため、強制的な学内再編と職をなげられてきている。
教養部における単位制の強化、教養の夜間ローマウツ、夜起町有に対する授業金
廃止処分、会計検査を口裏にした学生寮の自主管理解除、慶實大攻撃とてある。
とりわけ、慶實大攻撃は、学内自治弾圧体制の突破口としてなげられてきている。

昨年四月、総長に就任した天田は、「天田総長就任弾劾」の同窓会のタテ巻を内
務な死に入らなからと、一時計台前から撤去し、それ以降もタテ巻撤去規制
を行っている。又、天田の意をうけ、そのまじりのみにした学生部長兼川は、本年
一・一〇付文書を發表し、今後一切いわゆる団交を行なわない、吉田、熊野二票に
関して慶實大、自主管理解除の戦士と宣言し、軍山自身も、暴行傷害事件を三ッ
十あげ、警察の事情取にたいし、三名の學生が不当逮捕、起訴されている。刑事
正すう行われている。我々はこのような管理強化、大学当局一体となった慶實大の
攻撃粉碎し、二票の自主管理を前衛する中、学内再編を許さない闘いを組織し、自治
活動を活発化させていかなければならぬ。

☑ 熊取京大女子校の研究体制を解体せよ

このまじりの学内再編が急務である。京大の研究体制は、東南アジア研、農学部
熱帯農学講座、アフリカ研の開設計画をはじめ、産業協同体制を基礎として、侵略
に向けた研究体制な着目と進められている。昨年暴露された熊取京大の放射能
タレ流しは大学の反人民性を顕わにし、腐敗した研究体制をさらけ出した。同じ
住民、環境を放射能の犠牲にし、日帝の原爆力政策の隠微拠点としてある京大の
の研究体制を解体する闘いを通じ、京大の学問、研究体制を再度、開いて正してい
こうではないか。

全ての新入生諸君、学生諸君が大学の管理強化、再編攻撃に対し、反響を組織
し、更なる自治活動の本流入合流する闘いに結集し入ることを強く訴えた。